



## 『僕はどう生きるかプロジェクト』

鹿島小学校 六年 藤田 健士朗

「私は虚空に矢を射る」という言葉が好きです。これは、鹿島の偉人、田澤義鋪が言った言葉です。僕はこの「虚空に矢を射る」とはどういうことかを田澤さんの伝記を読んで調べてみました。それは、自分が正しいと思ってやっていることが、なかなか人に認めてもらえなくても諦めずに続けていくことを意味しています。

田澤義鋪は、中学生のころ、同じ中学に通っている鉄三郎と共に鹿島中学校に図書館を作りました。学びたいというみんなの想いを実現するため、周囲の大人に呼びかけ、寄附を募り、自分たちに必要な図書を選定し、実現にこぎつけました。また、静岡県郡長になってからは、農民が学ぶために必要な夜間学校を作りました。その実績はやがて、青年団という組織を作ることになったり、明治神宮の「神宮の森」の造園や明るい選挙運動の推進につながったりもしていきます。彼の功績は、挙げればきりがなくらいでした。

僕たち鹿島小学校の6年生は、総合的な学習の時間に「僕たちはどう生きるかプロジェクト」として、田澤義鋪さんのことについて、学びました。そして、生誕一四〇年記念式典に合わせて、「田澤義鋪物語」の劇を披露しました。僕は、主人公田澤義鋪を演じさせてもらったので、彼の業績を人一倍知ることができました。

田澤さんの生き方から学んだことは「自分の信念を貫く勇氣」と「あきらめない心」です。田澤さんは、若いころから地方の青年たちのために勉強したり、心を鍛えたりする場を作りました。そして、自分も一緒に寝たり、食べたりして、同じ目線で青年たちを支えたところがすごいなあと思いました。また、思うように進まない時でも、別のやり方でやってみる実行力がある人です。政治の場面では正しい選挙を広めたり、労働者のために働いたりしてきました。えらい地位にあっても、自分の信念に合わないことはしなかったという事も知りました。

僕は今、習い事をあきらめずに続けていますが、時々「いやだな。もうやめようかな」と思う時もあります。でも、いいプレーができると、やっぱり続けていて良かったなと感じます。学校では、友だちに正しいことをはっきり言えない時があります。そのせいで、自分がかかりしたり、後悔したり、周りの人を悲しくさせたこともありました。田澤さんのように周りの人のために行動する勇氣を持ちたいです。間違っていると思ったことは、相手を大切にしながら伝えられる人になりたいです。僕は今、それを実践しています。総合の「僕はどう生きるかプロジェクト」は終わりましたが、田澤さんの生き方を知った今、僕自身のプロジェクトが始まったと思っています。僕はどう生きるか？「正しいと思ったことを貫き、あきらめない」これが僕のプロジェクトです。